

6月になりました

朝、校門で挨拶をしていますとうれしいことが毎日あります。一人一人の子供たちの成長を見ることが出来ます。1か月前、一週間前、昨日と比べながら、成長を心の中で喜んでいます。「身長が伸びているな」「今週は、体操服忘れてないな」「昨日より、きちんと挨拶をしているな」どんな小さなことでも、気付いたことはうれしくなります。特に、年々登校時の列がきれいになっていることは、うれしいことです。列がきれいだというこのもとには「ルールを守る」「自分を律する(がまんができる)」「粘り強く下の学年の子を指導し続ける」「指導されたことを聴く」といったことがあります。これらは、子供たちが社会生活を送るうえで、とても大切なことです。また、これらのことは、勉強面にも良い影響を与えてくれます。つまり、これらを安定的にするようになれば、勉強もわかってくるようになります。

しかし、人はだれしも毎日を安定的に過ごしているわけではありません。大人にとっては、瀬戸内海の波ぐらいの振れ幅のことであっても、子供にとっては、日本海や太平洋の波のように大きな振れ幅になることがあります。「一週間前は、できていたのに今はそうでもないな。」ということはよくあります。安定的に、振れ幅を小さくしていくことが大人への道だと思います。子供たちが大人への道を歩んでいくためには、家庭での教育において、地域での教育において、学校での教育において、「子供たちを信じ」「がまん強く」「ねばり強く」指導していくことが大切だと考えています。さらに、家庭、地域、学校が「連携し、互いを信頼すること」で子供たちに「安心できる」空間を提供できると思っています。そうして、気持ちの振れ幅の少ない、安定的な生活を過ごせることができるようになると考えています。

さて、ご家庭の皆様方はとても温かいなと思っています。例えば、三和小学校では、授業などについて毎回保護者の意見をお願いしている教員がいます。保護者の皆様方がご多用にもかかわらず、時間を割いてメッセージをいただいていることだけでもありがたいのですが、内容も心温まるもので、ありがたく思っております。

地域の皆様方も、地区民運動会で子供たち、先生たちをととても大切にしてくださっている様子を見ます。また、地区民運動会でのプログラムも学校の提案を快く受け入れてくださり、子供たちが地域の中で地域の方と過ごす時間を確保していただきました。子供たちが笑顔で過ごす様子を見て、地域の皆様の心温かい対応のおかげだと感謝しています。

手前みそになるのですが、三和小学校の先生方は、子供たちのためになることだと思えば、自分の時間を割いて子供たちのために使ってくれます。子供たちが、下校集会を自分たちで運営できるようになり、少ない先生の人数で大丈夫になっても、ほとんどの先生方は、外へ出てくれます。そして、子供一人一人と挨拶をします。ですから「さようなら」「また明日」が校庭に広がっていきます。子供たちの笑顔も多くなります。

子どもたちは、家庭で育ち、地域で育ち、そして学校で育っていきます。学校も、家庭、地域での温かい教育と連携・連続していきながら、役割を果たしていきたいと思います。

三和小では、三和小ブランドという「子どもたちにこうなってほしい姿」を5つ目標に掲げています。

これからの学校生活の中でも、いろいろな場面で三和小ブランドを実現する姿を見せてくれることを楽しみにしています。

神石高原町立三和小学校

校長 前田 静樹



三和小ブランド (三和小の児童は)

- ・あいさつで周りを元気にします
- ・地域のことを考えて行動できます
- ・困っている人のために行動できます
- ・みんなで協力して問題を解決します
- ・「感謝」の気持ちを「やる気」につなげます